

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H04002

研究課題名（和文）子宮頸がん検診受診率向上のための看護職によるスメアテイカー制度の確立

研究課題名（英文）Establishment of a nurse-led smear-taker system to improve cervical cancer screening uptake in Japan

研究代表者

工藤 里香（Kudo, Rika）

京都橘大学・看護学部・准教授

研究者番号：80364032

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：スメアテイカー養成プログラムを、BasicプログラムとStepUpプログラムの2段階として構築し、実施した。Basicプログラムは3年間で48名が受講した。すべての受講生が最終の実技において、適正検体を採取することができた。StepUpプログラムは2名でスタートし、1名が終了した。30名の一般女性の細胞採取を実施し、すべて適正検体であった。また検査の際の説明においてもよい評価を得た。

Webinarにて3回の国際シンポジウムを開催し、本研究の成果および子宮頸がん検診やHPVワクチンの最新の知見を周知した。またウェブサイトを作成し、プログラムに使用しているパンフレット等を一般公開している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在医師のみが実施している子宮頸部からの細胞採取を、看護師が適切に実施するためのプログラムを開発した。本プログラムは海外での実践や最新の知見を取り入れたプログラムとなっており、子宮頸がんについて系統的に学ぶことができる唯一のプログラムである。本プログラムの受講者は適正検体を採取することができおり、女性である被採取者からの評価も高かった。現在受診率が低い若い世代の子宮頸がん検診の受診率の向上を目指すためには、本プログラムを普及し看護職による細胞採取を実践していくことが重要である。

研究成果の概要（英文）：The smear taker training programme was established and implemented as a two-stage programme: the Basic programme and the StepUp programme. The Basic programme was attended by 48 participants over a three-year period. The StepUp programme started with two participants and was completed by one. 30 general women's cell samples were collected, all of which were suitable specimens. The explanation given during the examination also received a good evaluation.

Three international symposia were held via webinars to disseminate the results of the study and the latest findings on cervical cancer screening and HPV vaccines. A website was also created and brochures and other materials used in the programme were made available to the public.

研究分野：Womens Health Care

キーワード：スメアテイカー 子宮頸がん 看護職 e-Learning

## 1. 研究開始当初の背景

世界で子宮頸がんは排除できるがんといわれており、2018年5月、WHOは世界的な公衆衛生上の問題として子宮頸がんの排除を示した。子宮頸がんの一次予防はHPVワクチンの接種、二次予防は子宮頸がん検診である。日本においてはHPVワクチン接種の事実上中止により、一時予防を進めることができない。二次予防の子宮頸がん検診については、20歳代の女性の検診受診率が低く、罹患率の抑制とはなっていない。HPVワクチン接種を進めることができない現在の状況では、子宮頸がん検診の受診率向上が急務である。

子宮頸がん検診受診率向上を目指して、受診者の行動変容を目的とした研究は多く実施されている。しかしその効果は小さく受診率を動かすものとはなっていない。また日本の検診制度は検査結果を本人に郵送し、その後の受診行動は保障しない。「がんが怖い」「検査が嫌」という心理が働き、再受診が必要な結果を放っておくこともあり、その結果、簡単な治療で完治するところを子宮摘出という結末にまで至ることもある。

そこで本研究では、受診を妨げる要因を取り除き、女性がまた受診したいと思える検査者、つまりきめ細やかな配慮と受診者に即した看護をもって検査できるスマアティカーを育てる「子宮頸がん検診受診率向上のための看護職によるスマアティカー制度の確立」を目指す。

## 2. 研究の目的

子宮頸がん検診受診を妨げる要因を取り除き、女性がまた受診したいと思える検査者、つまりきめ細やかな配慮と受診者に即した看護をもって、「正確な検査」「快適さ」「生活に即した健康教育」を「継続的に」提供できるスマアティカーを育てる「子宮頸がん検診受診率向上のための看護職によるスマアティカー制度の確立」を目的とした。

## 3. 研究の方法

### < 研究 >

2019年度まで実施していた看護職を対象としたスマアティカー養成プログラムをBasicプログラムとし継続して実施する。

プログラム実施前調査(工藤)	細胞診断結果の解釈と理解(加藤)
日本における子宮頸がん検診の背景と問題点(工藤)	骨盤内臓器の解剖学と生理学(工藤)
子宮頸がん検診ガイドラインの概要(工藤)	細胞サンプル採取:手技と実施(講義)(早乙女・江夏)
日本および海外でのHPVワクチンの動向(Hanley)	細胞サンプル採取:手技と実施(練習)(早乙女・江夏)
健康と生活-今後の婦人科受診につながる教育(鈴木)	細胞サンプル採取:手技と実施(実施)(早乙女・江夏)
スマアティカーの役割と婦人科検診に伴う看護(鈴木)	プログラム実施後調査(工藤)

### < 研究 >

Basicプログラムを受講した者、かつ継続的に子宮頸がん検診に携わることができる可能性のある者を対象に、StepUpプログラムを実施する。英国におけるスマアティカートレーニング更新プログラムを参考とし、本プログラムでは、正確な細胞採取と対象者の快適性を明確にするため、スマアティカー1名につき、30名の女性の子宮頸部細胞採取を実施することとする。

### < 研究 >

成果の発信として、国際シンポジウムの開催、WEB上での情報発信、啓発教材の作成を実施する。

## 4. 研究成果

### 1) Basicプログラム

2021年度6名 2022年度42名のスマアティカーを養成した。

2020年度は、Covid-19の影響があり、集合での研修会を実施することができなかった。そこでこれまですべて対面、集合で実施してきたプログラムにe-Learningを取り入れることとした。プログラム ~、~、~をe-Learningにて実施し、~、~、~を対面、集合で実施した。

e-Learningを取り入れた成果を、すべて対面で実施したプログラムの結果と比較した。その結果、参加者の人数の違いがあるものの、知識の獲得が向上した。これはe-Learningの特徴である「自分のペースで繰り返し学習できる」が効果的であったといえる。また「画像等もクリアに確認でき、また自分のペースで重要なところは何度も視聴できる」との意見もあった。技術の獲得についても事前にプラシ等を郵送して練習してきてから集合研修に参加してもらったため、事前にイメージをつくってから技術の獲得に移ることができるという効果がみられた。

表1 参加者の知識の獲得（正解率）

	e-Learning		集合研修	
	事前	事後	事前	事後
適切な細胞採取部位	16.7%	100%	11.8%	82.4%
適切な器具	6.7%	100%	76.5%	82.4%
適正標本の条件	11.1%	55.6%	29.4%	82.4%
適切な子宮頸がん検診の実施	61.7%	78.3%	54.1%	80.6%

## 2) StepUp プログラム

2022年からStepUpプログラムを開始し、すでにBasicプログラムを受講した2名が参加した。本プログラムでは、看護職のみで説明から細胞採取、検査結果の説明までできることを目指してプログラムを作成した。細胞採取に関して、1診療所で30名の一般女性から細胞採取をすることとし、1名が実施することができた。

細胞採取に関しては、すべて適正検体であった。検査実施前の説明や検査の実践に関しては、協力者より、以下のようにコメントをもらった。

### 【検査や結果の説明】

- ・どのような器具（クスコ）を使って検査するのか、事前に説明してくれて安心した。
- ・一つ一つ、声をかけてくれたので、見えなくても安心した。
- ・今まで単に検査を受けるだけで、検査の結果の読み方など知らなかったので、知ることができてよかった。
- ・冊子を使って説明してくれたので、わかりやすかった。
- ・検査の説明から実施まで同じ人でホッとする
- ・わからないこと、聞きたいことがあった時に、質問しやすい
- ・日常生活の中で困っていることがないかなど、看護師から聞いてくれた

### 【プライバシーへの配慮】

- ・内診台の乗り方を服装に合わせて教えてくれた
- ・急かされることがなかった
- ・出血するかもしれないと、ナプキンの使用を提示してくれた

### 【今後の検診受診について】

- ・今回がよい体験だったので、今後も継続して検診を受けようと思う
- ・若い人は子宮頸がんに関心がないので、受診促進のお知らせが定期的に欲しい

これらの結果より、本プログラム受講者が実施する細胞採取は、今までの検診と比べて「安心して受診する」ことができ、次回の受診につながるとの意見が聞かれた。看護職が子宮頸がん検診を担うことにより、他国と同様日本でも、子宮頸がん検診受診率の向上が図れることが示唆された。

## 3) 成果の発信

第一に、細胞採取の説明などに使用するため、子宮頸がんに関するパンフレットを作製した。また関連した健康相談に対応できるよう、月経及び低用量ピルに関するパンフレットも作成した。このパンフレットは、情報提供のために作成したウェブサイト「女の子がもっとHAPPY！に生きる」に掲載し、いつでも閲覧できるようにした。また情報の更新も実施している。

第二に、国際シンポジウムを企画し、Webinarにて実施した。第1回目のシンポジウムは「HPVワクチン～積極的勧奨再開を迎えて～」と題し、WHO, Department of Immunization, Vaccines and BiologicalsよりPaul Bloem氏、Australian Centre for the Prevention of Cervical CancerよりJulia Brotherton氏を迎え、世界のHPVワクチンの動向を講演した(2022年3月)。第二回目のシンポジウムは「子宮頸がん検診～日本の検診はどのように変化していけばいいのか?」と題し、Royal Infirmary EdinburghよりNurse ConsultantのBreda Anthony氏、University of MalayaよりYin Ling Woo氏を迎え、自己採取や看護職の活用を含めた子宮頸がん検診の在り方について講演した(2022年3月)。第3回目のシンポジウムは「子宮頸がん予防のための公平で迅速なアプローチとそのサポート」と題し、WHOよりPaul Bloem氏、Epidemiology & International Health(英国)よりDeborah Watson-Jones氏、Karolinska University HospitalよりJoakim Dillner氏を招いて開催した(2023年5月)。世界各地より多くの参加者があり、質疑応答も活発に行われた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 工藤里香、Sharon Hanley、江夏亜希子、早乙女智子、鈴木幸子、北島友香、西村香織、小林絵里子、村田美代子、村上利矢子、松井弘美
2. 発表標題 Strategies to improve Japanese cervical screening coverage: Results of the first systematic cervical screening training program for nurses in Japan
3. 学会等名 35th International Papillomavirus Conference in WASHINGTON DC, USA (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 工藤里香
2. 発表標題 看護職対象のスミアテイクー養成プログラムにおけるe-Learning導入の効果
3. 学会等名 第24回日本母性看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 工藤里香、鈴木幸子、西村香織、松井弘美、宗由里子、常田裕子
2. 発表標題 快適な婦人科検診受診のために看護職ができること～看護職対象のスミアテイクー養成プログラムの評価から～
3. 学会等名 日本母性看護学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

もっと女の子がHAPPY！に生きる  
<https://sites.google.com/view/onnanokogahappy/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Hanley Sharon  (Hanley Sharon)  (80529412)	北海道大学・環境健康科学研究教育センター・特任講師   (10101)	
研究分担者	鈴木 幸子  (Suzuki Sachiko)  (30162944)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授   (22401)	
研究分担者	北島 友香  (Kitajima Yuka)  (00846131)	富山県立大学・看護学部・講師   (23201)	
研究分担者	松井 弘美  (Matsui Hiromi)  (70515725)	富山県立大学・看護学部・教授   (23201)	
研究分担者	小林 絵里子  (Kobayashi Eriko)  (30584742)	富山県立大学・看護学部・講師   (23201)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村田 美代子 (Murata Miyoko)  (00627002)	富山県立大学・看護学部・講師  (23201)	
研究分担者	西村 香織 (Nishimura Kaori)  (20846133)	富山県立大学・看護学部・助教  (23201)	
研究分担者	早乙女 智子(田中智子) (Saotome Tomoko)  (10648489)	公益財団法人レイ・バストゥール医学研究センター・その他 部局等・研究員(移行)  (74329)	
研究分担者	村上 利矢子 (Murakami Riyako)  (90906893)	富山県立大学・看護学部・助教  (23201)	
研究分担者	岩本 健嗣 (Iwamoto Kenji)  (40553136)	富山県立大学・工学部・准教授  (23201)	
研究分担者	二本柳 圭 (Nihonyanagi Kei)  (90457929)	富山県立大学・看護学部・講師  (23201)	
研究分担者	岡田 麻代 (Okada Asayo)  (30846150)	富山県立大学・看護学部・助教  (23201)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Webinar 子宮頸がん予防のための公平で迅速なアプローチとそのサポート	開催年 2023年～2023年
---	--------------------

国際研究集会 Webinar HPVワクチン～積極的勧奨再開を迎えて～	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Webinar 子宮頸がん検診 日本の検診はどのように変化していけばいいの？	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------